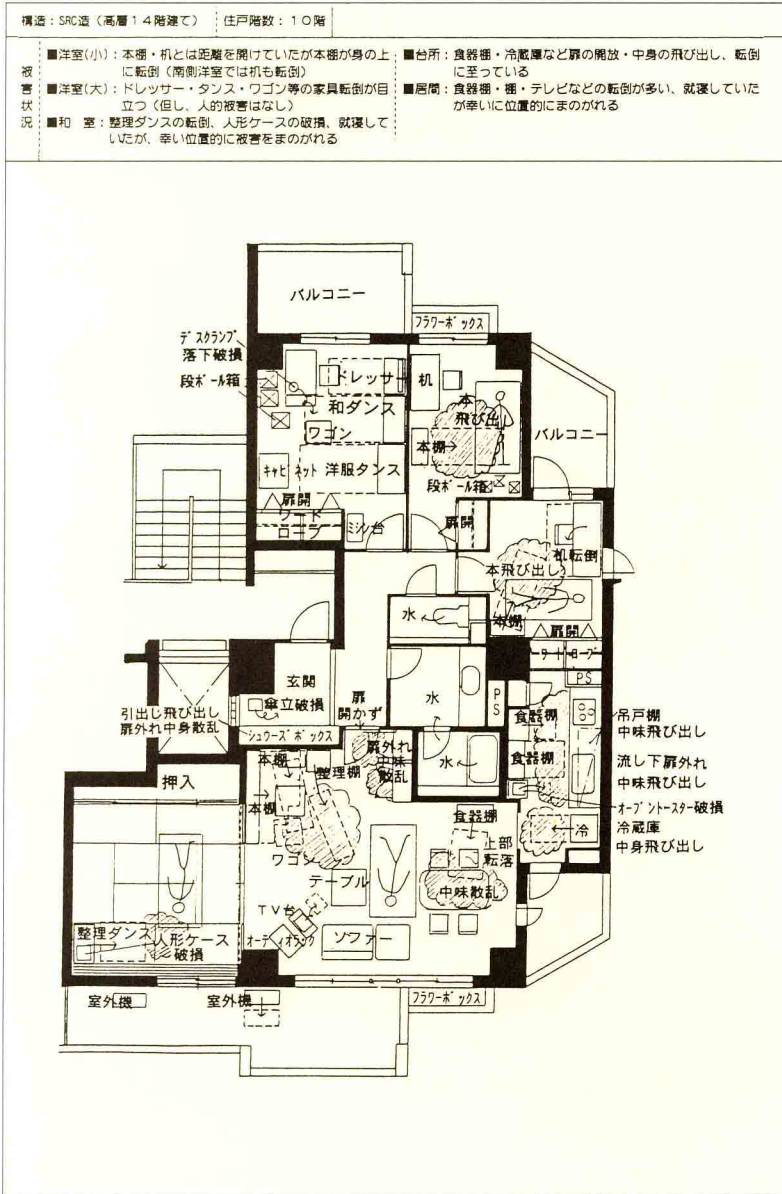


■室内の転倒や散乱の一例

京都大学防災研究所「地震時における建物内部空間の安全性」より



震度5強で タンスが倒れることも

平成8年2月に気象庁が発表した震度階級関連解説表によると、「震度5強」で、タンスなど重い家具が倒れ、テレビが台から落ちることがある」と想定されています。

わが国では平成5年から7年までの三年間に、震度6以上の強い地震が数回あったうえ、震度4や5といった地震は珍しくありません。室内での居住者被害を防ぎ、安全な避難経路を確保するために、家具を固定しておくことが重要です。

※2 釧路沖地震、北海道東方沖地震、三陸はるか沖地震など

- 阪神・淡路大震災では、住宅に被害がない場合でも、多くの家庭で家具や家電製品が遠くへ飛んだり、倒れるといった被害があった
- 特に、主寝室や子供室で本棚やタンス類が多く転倒し、居間や台所では食器棚、ピアノなどが転倒している
- また、家具類の転倒や落下が原因で怪我をした人は46%を超え、割れた食器類やガラスで怪我をした人は29%にものぼる

兵庫県南部地震

1995年 1月17日 マグニチュード：7.2
発生時間：AM 5:46 震度(最大):7(長田・灘他)

■住家被害

全壊	104,900棟
半壊	144,256棟
全焼	6,148棟
半焼	69棟
部分焼	238棟

■死者：6,430人
行方不明：3人
■負傷：重傷 8,763人
軽傷 35,010人

消防庁「阪神・淡路大震災について（第101報）」より

■特徴：神戸海洋気象台における地震動の加速度は、南北方向で最大 818ガル、東西方向で最大 617ガル、上下方向で最大 332ガルを記録し、都市直下型としては世界最大級といわれる気象庁「87型電磁式強震計データ」より

■家具の転倒防止対策

	芦屋	宝塚
地震対策も何もしてなかった	70.0%	73.0%
家具の固定・整備をしている	1.4%	1.6%

(家具の固定・整備をしている 東京:18.1%)
屋内災害対策研究会「屋内の震災対策」より